

金曜 ライフ・楽しむ

シニア世代を応援するページです

わたし色

生活情報誌「悠悠と。」

編集長・真鍋康利さん



「ねばならない」に縛られず

ショートバンカーは船乗りの最大の恥です。バンカーはゴルフのそれではなく、石炭が燃料だった時代の石炭庫のことで、今は船舶燃料一般を呼びます。燃料不足は大きな危険を伴うので強く戒められています。なにしろ海の上にはスタンドがありません。

これを元に先輩から船に乗る心得として、お酒など個人的な嗜好品を不足させるなど厳しく指導されます。不足すると誰かにもらいなくなるし、狭い世界の船の中では頼まれた方も嫌とは言いたくない。そうすると今度は自分も不足することになり、陸と違ってすぐに買い足すことが出来ず長い航海中大きな不便をかこつこととなります。

5分前精神というのがあります。7時集合と言いつつその時刻にのこの出かけていき、皆が整列している中でけんこつをくらったことがあります。5分前に集合し点呼を終え、7時に作業開始が正しい形で、全ての時刻を5分前に読み替えることが当然となります。船乗りになる勉強をしたことがあり、大切なことは忘れましたが、この二つはよく覚えており癖になっています。だから小旅行でも大きな荷物を持っていくはめにな

り、せつかちなほど早めに準備が整ってしまいます。

生きてると「ねばならない」ことや「べきである」ことがたくさんありますね。

「子供は親の言うことを聞かなければならない、勉強しなければならぬ」「親は子供をきちんと育てなければならぬ、甘やかしてはならない」「正しい道を歩くべきである。恥ずかしいことはしてはならない」「お金はもうけなければならぬ。お金もつけばかりを考えてはならない」「お酒を飲みすぎてはならない」「勝負は勝たなければならぬ」「約束を違えて

はならない」「出来ない約束を交わしてはならない」など。

いつも約束の時刻に遅刻しないようにしています。遅れそうになるとすぐ気になります。しかし、極端に気にしすぎると心が縛られているみたいにつらくなり、心臓への負担も大きいようです。

そこで最近はそのほど大した人間じゃないのだから「まあ、するに越したことはない」「程度に考えることも必要だ」と思い始めました。「ねばならない」から「な」を取り除いて「ねばらない」ようにするというのがいいです。

しかし気がつく「するに越したことはない」と思わなければならぬ」と考えている自分がいて、もうドロ沼状態です。

唯一守らなければならぬのが締め切り。これだけは待ってくれません。